

令和5年度 第5回湖西市水道事業経営審議会 議事要旨

1. 日 時：令和6年1月15日（月）10：00～11：30

2. 場 所：湖西市役所 3階委員会室

3. 出席者

委員長)

愛知大学地域政策学部 教授： 菊地 裕幸 氏

委員)

豊橋技術科学大学大学院工学研究科建築・都市システム学系 教授： 井上 隆信 氏

一般社団法人地方公会計研究センター 理事： 玉澤 一雄 氏

税理士法人ヤマダ会計 代表社員： 山田 義之 氏

湖西市自治会連合会 会長： 板倉 福男 氏

事務局)

湖西市環境部水道課

株式会社東京設計事務所

4. 概 要

1) 議事要旨

事務局から配布資料についての説明が行われた後、検討内容に対する意見交換を行った。主な内容は下記のとおりである。委員から頂いた意見及びパブリックコメント結果を踏まえ、料金改定計画書を答申することとなった。最後に、事務局から次回開催について3月18日を予定していることを連絡し、閉会した。

委員名については敬称略とする。

①湖西市水道事業料金改定計画書（案）（資料1）

事務局 料金改定計画書（案）について、市内に在住、在勤、在学している方や、市内に事務所、事業所を有する方等を対象に、1月下旬～2月下旬にパブリックコメントを実施したいと考えている。パブリックコメント終了後、意見に対して回答を行い、意見を精査した上で料金改定計画書へ反映を行う予定である。なお、次回3/18の第6回審議会では、答申を予定している。答申書にはこれまでの審議会における意見を附帯意見として掲載する予定である。本日、改めて今回の料金改定、今後の料金改定についてご意見を頂ければと思う。

委員 料金改定計画書としてまとめていただき感謝する。今回料金改定計画書（案）を作成するためにいろいろ議論してここまで来たと考えている。今回は資金不足や純損失が発生するというので料金改定を設定している。次回以降も、未来永劫このままの金額ではないと考える。説明にもあったように湖西市の水道料金は、県受水の単価の影響が大きい。その中で難しいとは思いますが、コストの削減にもう一步踏み込んで、収入を上げるだけでなく、原価を抑える施策を次回以降検討していただきたい。

事務局 県受水について様々な費用が値上がりしている中で、いずれかの時点で値上げの可能性があると考えている。市では費用削減に向けた動きを推進する必要がある。人件費や物価は上がっているが、水源井の更新ではスケールダウンにより費用対効果の改善を図っており、ソフト面でも効率化を目指して費用を削減するなど、コスト削減に向けた努力をしていきたい。

委員 公表資料では、図の中で横書き・縦書きや、色の統一等を図っていただきたい。

事務局 承知した。

委員 料金改定計画書（案）としてわかりやすくまとめていただき感謝する。今後もコストは物価上昇や、人件費上昇等、状況に応じて変化していくと考えられるため、見直し時に臨機応変に対応していただきたい。その中で結果を確認し、市民にわかりやすいものとして、改善しながらよりよい方向に進めていただきたい。将来的に世代間で不公正にならないように、早い段階で料金改定していく方針に同意する。今後も原価に対する努力を続けていただきたい。

委員 P13、P14 の財政シミュレーション結果について、現行料金の場合には今後収入減及び支出増により令和 10 年度以降は純損失が発生する見通しと記載されている。収入減は人口減少、使用量減少により、支出増は基本的には老朽化に伴う施設の更新や耐震化対策と思うが、具体的内容はどこに書かれているか。

事務局 料金改定計画書（案）に詳細は記載していないが、令和 3 年度に策定した湖西市新水道ビジョンで掲げた施設更新計画に基づいており、P6 に記載しているとおり、水源井の更新や施設統廃合を財政シミュレーションに反映している。

委員 料金値上げを市民に説明する際、財政シミュレーションにおいて今後赤字が見込まれることから料金値上げが必要ということを理解していただくために、なぜ赤字となるかを改めてどこかに記載した方がよい。

委員 P12 財政シミュレーションにおける主な支出増加要因として、物価上昇、人件費上昇、動力費・燃料費の高騰が記載されている。当面はこの 3 つが支出増加要因になると思うが、その後を見据えた場合は、施設の更新や耐震化もあるのではないか。

事務局 湖西市新水道ビジョンで水道施設の更新・耐震化計画を立て、財政シミュレーションを行っている。P12にはそれを前提に、その後追加した要素を記載している。そのため、この部分で説明が不足しており、水道施設更新・耐震化の内容等も追記する。

委員 P1 湖西市の水道料金の部分で、湖西市は静岡県内では高めの水道料金であるが、これは静岡県が特に東部地域を中心に湧き水が多いという特殊な事情がある。湖西市は全国平均と比べると低いということをより強調してもいいのではないか。玉澤委員も仰っていたが、施設更新により水道料金も値上がりするとすると、市民は不安になる方も多いと思うので、コスト削減を進めることが大事ではないか。古い設備を更新すること、これまで十分に更新できていなかったことにより費用がかかり、値上げが必要になることもあるかもしれないが、市民からなぜ計画的にやっとなかったのかと意見が出る可能性もある。市民の不安を和らげるよう、コストを削減していく部分について、今後目に見える形で成果をあげていただきたい。

委員 P19 図 6-2「口径別給水件数、給水量、給水収益の割合」と、P23 図 7-1「料金算定期間における口径別給水量及び給水収益割合」は、同じように見えるが違いはあるのか。

事務局 P19 はこれまでの実績のグラフであり、P23 は今後の見込みのグラフである。P19 は過去、P23 は将来を示しているが、同じように見えるため説明書きを追加する。

委員 料金検討と話は異なるが湖西市の取り組みについて確認したい。令和 3 年度に湖西市新水道ビジョンを策定されており、その中で料金改定の話があり今回審議会を立ち上げたと考えている。新水道ビジョンについて、市として PDCA サイクルの中で、現状どうなっているか、取り組みや現況の確認はされているか。

事務局 新水道ビジョンについて年次ごとに確認をしているが、公表は行っていない。施設は時間をかけながら徐々に進めている状況である。中々予定通りではない部分もあるが修正しながらやっていきたいと考えている。

委員 新水道ビジョンとして作成して取り組みをされている中で、現実と理想の乖離があるのは当然で、遅れていることは構わないと思うが、現状どこまで進んでいるか、遅れている理由などを市民に示す必要があると思う。遅れているのであれば、今後取り戻すのか先延ばしにするか、料金にも影響すると思うので、適宜発信していただきたい。

事務局 ビジョンの進捗状況は、公表の仕方を検討する。

委員 事務局にはただいまの意見を基に答申書に反映していただきたい。

②水道料金の時間帯別料金実証実験について（速報）（資料 2）

事務局 湖西市では、北部地区を対象に 2023 年 6 月～10 月に時間帯別料金実証実験を行った。本日は、実証実験結果の速報報告として、アンケート調査結果速報及び配水池時間帯別配水量の変化について報告する。本実験については、産官学で共同研究を行っており、今後、より詳細な統計分析も含めて検証を進める予定である。

委員 時間帯別料金を導入した事例がない中、大変意欲的、野心的な試みをされ、今回興味深い結果を出されたということについて敬意を表したい。

委員 P20、21 で昨年度との配水量割合の比較をしているが、導入していない地域と導入した地域を同じように比較すると効果ははっきりするのではないか。
また、今回のアンケートは記名式か。

事務局 記名式である。

委員 記名式であれば個人情報の保護に配慮しつつ、スマートメーターによる使用水量とアンケート結果を突き合わせると、どういう方が賛同して時間帯シフトされたか鮮明になると思うので、データ解析を期待している。

委員 P2 に「公営企業の料金体系は、1つの料金体系しか選択できず、多様性に乏しい」とあるが、これは水道料金として1つの料金体系しか持てないという認識か、現状1つしかないということか。

事務局 1つの料金体系というのは、2か月の使用水量に対する料金体系を指しており、電気・ガスは時間帯別があることと比較して記載している。

委員 料金体系について、時間帯別か時間帯別でないものかを選択できるということか。

事務局 各自治体 1つの料金体系としている中で、複数の料金体系の設定ができるかも課題ではあるが、今回は多様性がないということで、時間帯別料金の可能性を検討している。

委員 P7 で今回 1,890 戸対象とあるが、一般家庭や事業者、工場の内訳はわかるか。

事務局 詳細な数値は手元にないが、集落地区のため、ほとんどが家庭用となっている。

委員 今回の実証実験としてはそれでいいと思うが、事業者によって変わると考えられるので、その部分の対処や効果の検証もお願いしたい。また、意外と水の利用に関して意識を持っていただいたということで、今回は割引のみであるが、今後時間帯別の料金を導入する場合、使用水量が多い時間帯の増額の可能性はあるか。

事務局 導入の際の手法として、基準値を決めて多く使用される時間は高くする方法や、基準を決めて水量を減らしたい時間を割引する方法もあり、今後検討していきたい。

- 委員 時間帯別料金について全国的に注目されていることから、今後より細かく検討していただきたい。P20 に誤記があるため修正していただきたい。
- 委員 P6 に期待する効果として、ダウンサイジングなどがあり、P5 をみるとステップ 2 で検証していくと思うが、時間帯別料金として使用水量が平準化されることにより、施設能力を下げ、施設の更新費の抑制等ができる見込みはあるか、おおよそこの方向でいくと効果は期待できそうか。
- 事務局 全国的に例がない中で、現時点で定量的な数値を示すことは難しい状況である。ただし、水道事業を進める上では、施設や管路の更新は必ずついて回るコストであり、管路の口径が 1 ランク下がれば施設更新にかかる費用が削減できることは確実である。使用水量のピークが下がった場合に無理のない範囲で施設能力を下げるということについて、今後検証が必要であり、定量的な効果が示せる段階ではないが、それも含めて可能性を探っている状況である。
- 委員 今後まだ先になるかもしれないが、時間帯別料金を導入することにより、どのような効果が得られるのかという検討も期待したい。
- 委員 今回の料金改定では、ビジョンにおける管路の更新費用の試算を基にされているかと思う。また、耐震化関係は早めに進める必要がある。一方で実験を取り組むことによりダウンサイジングをして更新費用を抑制しようという話がある。現状進めている更新と乖離が生じると思うが、今後の取組について教えていただきたい。
- 事務局 今回の料金体系には時間帯別料金は含めていない。先々実装できるようであれば加味していくことも考えられる。現状では、細かなデータが揃っておらず、未知数な部分があるため、把握できた段階で時間帯別料金の検討を慎重に進めたい。
- 委員 料金の低減に向けた意欲的な取組をする姿勢は非常に良いと思う。その中で、万一、使用量が想定最大を超えた場合のリスク管理を、ダウンサイジングしていく中でどう確保していくかが大きな課題になると思う。その辺りを忘れずに取り組んでいただきたい。
- 委員 非常に意欲的な取組だと思うので今後も進めて頂きたい。その一方で、導入された場合、市民に生活の変更を強いる側面もあるため、そうしてでもコスト削減効果が高いということが立証できるよう、今後も実験や検討を進めて見極めながら、導入できるようであれば導入していただければ良いと思う。事務局にはただいまの意見を基に、引き続き今後の検討に生かしていただきたい。

以 上